

「健康で幸せな生活」へ

ビッグデータ解析で成果

弘大COI

弘前大学の健康増進研究プロジェクトは、2013年に国と科学技術振興機構（JST）の「革新的イノベーション創出プログラム（COI ストリム）」に選ばれ、健診ビッグデータ解析などで多くの成果を上げてきた。25日に採択を受けた「COIネクスト」はCOI ストリムの後継に当たる。弘大などは新たな事業採択を機に、これまで取り組んできた短命県返上から一歩進んだ「健康で幸せな生活」の実現を目指す。（赤田和俊）【本記一画】

弘大では「岩手健康増進プロジェクト健診」や「いきいき健診」で得たビッグデータを解析し、病気発症の人工知能予測モデルを開発。健診と病気予防指導をセットにした「QOL健診

（啓発型健診）」を考案した。JSTの総合評価では全国の事業で唯一、最高評価をう回連続獲得した。企業や団体が出資する寄付講座や共同研究講座は、COI関連でこれまでに21

件開設。弘大は近年、年間5億円前後の研究費を企業などから得ており、COIネクストでは年間10億円の獲得を目指す。

21年度まで9年間行われたCOI事業は、中路重之特任教授がトップを務めてきた。COIネクスト事業を進める弘大健康未来イノベーション研究機構の村下公一機構長は「今までのCOIは病気のない普通の暮らしを目指してきた。COIネクストでは、生涯活躍できる、健康的で幸せな人生を目指す。赤ちゃんからお年寄りまで、全世代に働



弘大が取り組んでいるQOL健診の様子。8月31日、弘前市の県りんご協会（弘大提供）

産学官金一体で取り組む

三村申吾知事 弘前大学の提案が地域課題の解決や地域経済の発展に資すると評価されたものであり、誠に喜ばしい。このプロジェクトは、県が取り組む健康寿命延伸やライフ関連産業の振興に貢献する。今後も弘大を中心に、産学官金が一体となって取り組む。

新しい地域社会モデルを

桜田宏弘前市長 弘前大学のプロジェクトは市が目指す「健康都市弘前」の考え方と合致する。弘大と市の強固な連携関係と、他に類を見ない長年のビッグデータを生かし、人もまちも健康にすることで地域の活力も最大化する、新しい地域社会モデルを構築したい。

きかけたい」と語った。